

# 豊臣の美術

2021年4月3日(土)—5月16日(日)



1



2



3



4



5



6

## 桃山の夢ひろく トヨトミ

- 1 重要文化財 《豊臣秀吉像》 慶長3年(1598)賛 京都・高台寺
- 2 重要文化財 《唐物茶壺 銘 松花》 大名物 中国 南宋・元時代・13-14世紀 徳川美術館(©徳川美術館イメージアーカイブ/DNPpartcom)
- 3 《蜻蛉燕文様陣羽織》 桃山時代・16世紀 大阪城天守閣
- 4 岡山市指定文化財 《道中風呂道具(風呂桶)》 江戸時代・17世紀 木下家
- 5 重要文化財 《四季花木図襖》 狩野光信筆 慶長5年(1600) 滋賀・園城寺
- 6 重要文化財 《醍醐花見図屏風》(部分) 桃山時代・16-17世紀 国立歴史民俗博物館
- 7 国宝 《短刀 銘 左/筑州住(号じゅうらく(太閤左文字))》 南北朝時代・14世紀 ふくやま美術館



7

日本史上もっとも立身栄達をきわめた人物はだれか、と問われたら、大多数の人が最初に名前をあげる人物、それは「豊臣秀吉」ではないでしょうか。織田信長の遺志を継いで全国統一をなしとげ、大坂に政治拠点を選んだ天下人・秀吉とその一族は、強大な権勢と富を手中におさめ、絢爛豪華な桃山文化を隆盛へと導きました。16世紀末から17世紀初頭のわずか30年たらずの短い期間でしたが、豊臣氏がリードした文化創造のトレンドは、人々の美意識に大きな変革をせまり、桃山美術の潮流を醸成する原動力となりました。

大坂の陣で敗れて滅亡の道をたどった豊臣氏に直接関わる美術工芸関係の遺品は、勝者である徳川氏のそれに数的には及ぶべくもありません。しかしながら、関係寺社、皇族・貴族、恩顧の

大名らのもとを経て、少なからぬ優品が今日まで伝えられています。秀吉の神格化にかかわる多数の肖像、秀吉夫妻の遺愛品である優美な蒔絵調度(高台寺蒔絵)をはじめ、唐物茶道具、刀剣など一族が収集した名物の数々、あるいは御用絵師・狩野派による寺院障壁画や太閤秀吉を追慕する風俗画まで、古文書、甲冑類を除いても、その内容は実に多彩です。

本展では、これら豊臣ゆかりの品々から、国宝3件、重要文化財22件を含む約80点の精華をよせ、激動の時代を映す壮麗な造形をご紹介します。桃山の「夢」をひらいた、天下人の大いなる威光と美意識をご体感いただけることでしょう。

(知念 理)